



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	2024年 年次報告書
Author(s)	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
Description	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2024年に行った活動を記録した年次報告書。
Issue Date	2025-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94266
Type	report
File Information	Annual report 2024.pdf



2024年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2024



北海道大学
大学院教育推進機構 リカレント教育推進部

Advancement of Recurrent Education Division,
Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University

2024年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2024

Contents

リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針	2
巻 頭 言	3
2024 年度の実施概要	4
北海道大学リカレント教育実施体制の整備	6
オンライン決済システム導入	8
広報・コミュニケーション	9
北海道大学リカレント教育プログラム	10
東北大学との合同による履修証明プログラムの新設	11
北大道新アカデミー	12
2024 年度「AI と人間社会」プログラム	14
令和 6 年度札幌市大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進事業補助金	16
教養深化キャリアデザインカフェ共催	18
北海道大学ホームカミングデー 2024	19
他機関・他大学・企業へのヒアリング等	20
内部ヒアリング・企業打ち合わせ	21
2023・2024 年度リカレント教育推進部年表	22
記事掲載およびワークショップ・講演協力・研究業績	23



リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針

リカレント教育推進部は、組織を発足するにあたり、2023年5月に組織のビジョン、ブランドプロミス、信条と行動指針を定めた。

ビジョン リカレント教育推進部が目指すもの、ゴール

研究と共に、人の新たな可能性を開拓する

ブランドプロミス リカレント教育推進部の受講者に対する約束

札幌農学校から引き継がれた開放的なキャンパスで、学びを重ね合わせ、新たな価値を共に探究する場を提供します

信条と行動指針 リカレント教育推進部の行動規範

信 条

真理を探究するマインドは、人の可能性を広げると信じている

行動指針

1. 感度の高いプログラムを提供するために感性を磨く
2. 試行錯誤しながら学べる環境をつくるために失敗を恐れない
3. 新しい教育のシステムを積極的に取り入れる
4. 学習者と教員・スタッフのネットワークを維持して、学びの継続に新たな価値を生み出す
5. 関わる全ての人への共感・尊敬を忘れず、何事にも力を合わせる



巻頭言



山本 文彦

北海道大学理事・副学長
大学院教育推進機構 機構長

北海道大学では、リカレント教育を推進するために、大学院教育推進機構の中に、リカレント教育推進部を設置し、学内外の多くの皆様にご協力いただきながら、種々の取組みを進めています。関係する皆様に改めて御礼申し上げます。

リカレント教育に対する社会のニーズは、かなり広範にあると考えています。そして学びたいと思う方々の目的もまた多様だと思います。その上、無料で自由に視聴できる多くのオンライン講座等もあります。大学がどのようなリカレント教育を実施するのか、しっかりと考えなくてはなりません。

他方、大学内に目を向けると、なぜ大学がリカレント教育に取り組む必要があるのか、学生の教育や研究あるいは管理運営等の業務で忙しく、リカレント教育を担当する時間がない、という意見も多くあるのではないかと思います。

大学は、日本の教育システムの中の最後の段階として、高校を卒業した学生を受け入れ、社会に送り出す機能を果たしています。しかしこれだけが大学の役割ではありません。大学がどのような社会的役割を果たすべきなのかを考える過程で、大学として目指すべきリカレント教育の姿が見えてくるのではないかと考えています。

リカレント教育推進部は、こうした根本的な問いに向き合いながら、さまざまなプログラムを推進していきます。多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

リカレント教育推進部にとって、2024年度はより本格的に事業に取り組む年になりました。昨年度、令和4年度補正予算を基盤に開講した「AIと人間社会」プログラムを、今年度も引き続き実施しました（p.14-15）。また、新たに履修証明プログラム「地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）／地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）」を開講しました（p.11）。これらを含め、2024年度のReH（北海道大学リカレント教育プログラム）は10プログラムとなりました（p.10）。

リカレント教育推進部の業務の第1の柱は、各編成部局が実施するReHを支援することです。そしてもうひとつの柱は、リカレント教育推進部自身が中心となるプログラムの企画・実施です。今年度の「北大新アカデミー」は後期文系コースに替わり、「動物と人間社会」というテーマに基づく総合コースを新たに企画し、部局横断的な講師で開講しました（p.12-13）。さらに、リカレント教育推進部は、地域のニーズに対応したプログラムを企画・実施するために、札幌市の「大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進補助金」を基盤に、学内外と連携して来年度の開講にむけ準備を進めています（p.16-17）。

上記を含めたこれまでの活動で、私たちは多くの経験知とネットワークを蓄積しつつあります。そのなかであらためて気付いたことがあります。リカレント教育は、受講者や受講者が活躍する場である企業や地域、つまり「社会」のニーズに対応しなければならない、とよく言われます。これは間違いのない大前提です。しかし一方で、教育の一翼を担う大学研究者の「ニーズ」にも十分対応させる必要があります。新たな制度設計により経済的な動機付けに対応することはできましたが、それだけでは十分ではありません。

解決のひとつのヒントは、ReHのビジョンである「研究と共に、人の新たな可能性を開拓する」に書かれている「研究」にあるのではないかと考えています。ここでの「研究」には、探究する姿勢と方法を学びあう、という意味と、大学の先端研究を学びあう、という意味があります。しかし後者において、単に研究者が研究成果を伝える、という従来の教育／学習観から脱却する必要があります。つまり、産学連携・共同研究とは別のモードとして（あるいはその前段階として）、教育／学習を通して研究に参加する新たなチャンネルを作り出す必要がある、ということです。これにより、学びの場で得た知を受講者は現場で活用し、研究者は研究へ還元することで、研究者の研究「ニーズ」にも対応することができるでしょう。

経済的側面・人材的側面だけではなく、専門知をどのように生産・環流させ、リカレントのエコシステムを構築していくのか。この非常に大きな問いに取り組むために、今後とも皆様のご協力をいただければ幸いです。



川本 思仁

北海道大学大学院教育推進機構
リカレント教育推進部 部長



2024 年度の実施概要

北海道大学は実学の重視という理念に基づき、昨今の社会が求める状況に対応するために、2022 年度 4 月に大学院教育推進機構にリカレント教育推進部を発足させた。リカレント教育推進部は、大学の知と産業界や自治体などの社会ニーズをマッチングした高度なリカレント教育を全学的に推進するための支援・実施組織である。本報告書は、2024 年度のリカレント教育推進部の事業を記録したものであり、本項ではその概要をまとめる¹

1. 前年度までの概要

2022 年は学内組織と調整をしつつ事業方針を定め、3 月にキックオフシンポジウムを開催した。翌 2023 年度には事業を本格化し、既存 8 プログラムを ReH（北海道大学リカレント教育プログラム）としてまとめるとともに、令和 4 年度補正予算を用いて新規に「AI と人間社会」プログラムを開講した。ReH 合計 9 プログラムの受講者数は約 1,600 人となった。制度整備としては、10 月にリカレント教育実施委員会設置内規、リカレント教育アドバイザリーボード設置内規、および北海道大学リカレント教育プログラム要綱を制定し、今後のプログラム発足の基盤を整えた。

2. 2024 年度の成果

ひとまず事業を形にした 2023 年度を踏まえて、2024 年度はその知見をふまえて事業を改善し、次の展開を目指す年となった。その具体的成果は以下 5 項目に分けてまとめたが、第 4 期中期目標・中期計画に記された評価指標に照らせば、以下の通り現在まで順調に事業を実施できているといえるだろう。

(1) イノベーション創出に繋がる最先端の知見の提供と、それを活用するための能力開発を担う産業界のニーズに対応したリカレント教育プログラムを令和 6 年度までに構築し、令和 7 年度から実施する

- 新規プログラムとして令和 5 年および 6 年に「AI と人間社会」プログラムを開講
- 既存のプログラムの「医療 AI 開発者養成プログラム【インテンシブコース】」を令和 7 年度からリカレント教育プログラム（狭義²）として開講予定

(2) 地方自治体などの行政上のニーズを踏まえた、地域の課題解決に資する問題発見能力や課題解決能力の開発を担うリカレント教育プログラムを令和 6 年度までに構築し、令和 7 年度から実施する

- 新規プログラムとして令和 6 年度に「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」を企画・準備。令和 7 年度に開講予定
- 既存プログラムの「科学技術コミュニケーター養成プログラム」を令和 7 年度から履修証明プログラムとして開講

3. 制度設計等（p.6-8）

6 月と 3 月にアドバイザリーボードを開催し、有識者から助言を得た。また、リカレント教育実施委員会を 9 月と 2 月に開催し、それぞれで「AI と人間社会」プログラムと医療 AI 開発者養成プログラムの開講について審議した。基盤整備としては 9 月にオンライン決済システムを導入し、11 月には授業科目外の講習の設定や大学院生の共修を可能にするために、履修証明プログラムに関する規程等を改正した。また、「地域イノベーションプロデューサー塾」と「科学技術コミュニケーター養成プログラム」を文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に申請し 12 月に認定された。

¹ なお本報告書では、2023 年度未実施だったため昨年度報告書に詳細を記載できなかった事項についても記載している。

² 狭義のリカレント教育プログラムとは、北海道大学リカレント教育プログラム要綱に基づくプログラムをさす（2024 年度は「AI と人間社会」プログラムが該当）。広義のリカレント教育プログラムとは、上記の狭義リカレント教育プログラムの他、履修証明プログラムや他のプログラムなど社会人向けに開講されている 10 プログラム（2024 年度）をさし、ReH と表記される。

4. 広報・コミュニケーション (p.9、18-19、23)

北海道学のリカレント教育への取り組みの可視化のために、8月にウェブサイトを公開し、従来のSNSとあわせて運用した。また、『北海道大学概要 2024』（7月発行）にリカレント教育プログラムの欄を新たに設けた。その他広報を兼ねたイベントを複数実施・協力し、メディアによる取材に対応した。

5. リカレント教育プログラムの支援・実施 (p.10-15)

2024年度のReHは既存と新規あわせて10プログラムとなった。そのうち以下3プログラムは学内外と共同してリカレント教育推進部（大学院教育推進機構）が編成部局となった。

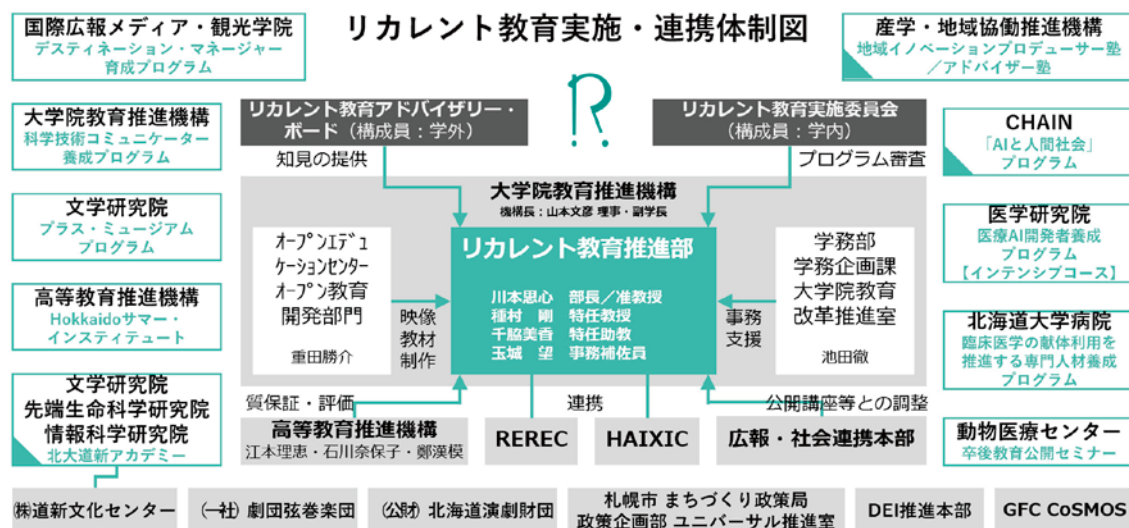
- ・地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）/ アドバイザー塾（RIAS）（産学・地域協働推進機構）
- ・北大道新アカデミー（道新文化センター）
- ・「AIと人間社会」プログラム（人間知・脳・AI研究教育センター）

6. 新規プログラムの立ち上げ準備 (p.16-17)

自治体のニーズに対応したプログラムを企画・実施するために、札幌市の「大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進補助金」に応募し、採択された。キックオフシンポジウムを開催するとともに、プログラム実施のための調査と教材制作を行った。この他にも学内外と調整のうえ複数のプログラムを準備している。

7. 学内外のヒアリング等および連携 (p.20-21)

ニーズ・シーズ・課題の把握や新規プログラム立案、問い合わせ対応のために学内外でヒアリングや企画打ち合わせを行った。本報告書には記載していないが多数の企業に対してのヒアリングも実施している。なおリカレント教育推進のために学内共同プロジェクト拠点「リニューアブルエナジーリサーチ&エデュケーションセンター（REREC）」「ヘルスケア AIX イノベーションセンター（HAIXIC）」に参画し、最終的に以下の連携体制を構築するに至った。



8. 今後の展望

これまで補助金事業等で実施されてきた社会人向け教育活動の継続や、地域ニーズに応じた実務的技能の教育要請が学内で顕在化してきたことから、引き続き学内シーズの聞き取り調査を進め、リカレント、リ・スキリング教育の展開を推進していく。



北海道大学リカレント教育実施体制の整備

大学におけるリカレント教育の提供については、社会人や企業のニーズ把握、学内体制の整備、教職員確保、広報・周知等の課題が挙げられている。リカレント教育推進部では、これらの課題を解決し、リカレント教育の開発や維持継続を促進するため、2024年度は、以下の体制整備を行なった。

1. 大学院教育推進機構リカレント教育アドバイザリー・ボードの設置と会合の実施

本学のリカレント教育に関する事項について、大学院教育推進機構長の諮問に応じて助言を行うアドバイザリー・ボードを設置することについては、2023年8月大学院教育推進機構運営委員会の議を経て大学院教育推進機構リカレント教育アドバイザリー・ボード内規が制定されている。アドバイザリー・ボード委員は、リカレント教育に関するステークホルダーの代表により構成するものとして、経済・産業界においてイノベーションに繋がるリカレントに知見を有する、元DIC社長・校友会エルム会長の杉江和男氏、地域開発・産業活性化等にかかる人材育成に知見を有する、元下川町長・(公財)はまなす財団専務理事の谷一之氏、リカレントによるキャリアパス形成に知見を有する、(株)三菱総合研究所主任研究員の数本沙織氏を委嘱した(任期2024年3月1日～2025年3月31日)。第1回のアドバイザリー・ボード会合は6月25日(火)に対面形式で実施した。第2回の会合は2025年3月27日(木)にオンラインで実施した。

第1回アドバイザリー・ボード会合の概要

日時・場所	内 容
2024年6月25日(火) 14:00～15:30 北海道大学ファカルティ ハウス「エンレイソウ」 2階 第1会議室	山本理事からの諮問「北海道大学のリカレント教育で重視する点」 ①従来の対個人プログラムだけではなく、対組織プログラムも推進する「産業界・自治体との連携」 ②オンラインとキャンパスをいかした対面授業を組み合わせる「北海道という地域性と課題の解決・キャンパスの活用」 ③専門性の高いプログラム、大学だからこそ可能な社会人と学生の「共修」、ユニークかつオンリーワンといえる「総合研究大学としての特色をいかした多様な分野／異分野融合プログラム」

2. リカレント教育実施委員会の設置とリカレント教育プログラムの学内展開

北海道大学におけるリカレント教育の実施については、大学院教育推進機構リカレント教育推進部において、企画・運営を行うこととしており、大学院教育推進機構にリカレント教育の企画及び施策の審議機関としてリカレント教育実施委員会を設置する内規を2023年8月に大学院教育推進機構運営委員会の議を経て制定している。委員は、大学院教育推進機構長、副機構長、リカレント教育推進部長、事務担当である学務企画課大学院教育改革推進室長を職指定としているほか、リカレント教育に知見・経験を有する学内の教員から担当理事の推薦に基づき総長から委嘱することとしており、以下の委員により構成されている。

実施委員会メンバー

山本文彦	北海道大学理事・副学長・大学院教育推進機構長
藤田 修	工学研究院教授・大学院教育推進機構副機構長
川本思心	理学研究院准教授・大学院教育推進機構リカレント教育推進部長
石黒侑介	メディア・コミュニケーション研究院准教授
工藤興亮	医学研究院 教授
林 重成	工学研究院 教授
種村 剛	大学院教育推進機構リカレント教育推進部特任教授
学務部学務企画課大学院教育改革推進室長	

リカレント教育実施委員会

開催名	日時/場所	内 容
第1回リカレント教育実施委員会	2024年3月28日 オンライン	当該委員会の趣旨、リカレント教育プログラム、大学院教育推進機構リカレント教育推進部についての説明・報告の後、リカレント教育の在り方について意見交換
第2回リカレント教育実施委員会	2024年9月2日 高等教育推進機構中会議室	「リカレント教育プログラムの開設について」を議題として、「AIと人間社会」リカレント教育プログラムの2024年度開設について審議・了承
第3回リカレント教育実施委員会	2025年2月7日 オンライン	リカレント教育プログラムの開設についてを議題として、「医療AI開発者養成プログラム」の2025年度開設について審議・了承

リカレント教育の実施に関して、学内各部局からの照会が増加してきている。今後は、2023・2024 年度に実施した「AI と人間社会」リカレント教育プログラムの検証に基づき、リカレント教育プログラム実施要綱の見直しとガイドラインを策定し、2025 年度に全学的に周知することを計画している。

3. 履修証明プログラム制度の整備

北海道大学は 2011 年度から履修証明プログラムを導入している。これまで実施されてきたプログラムは、主として大学院授業科目を活用し編成されており、1 単位相当の受講料を聴講生授業料と同額としており、また、在学生在が履修証明プログラムを受講する際の受講料については、授業科目を受講することとなることから、不徴収とすることと規定されていたが、履修証明プログラムを編成する講習¹の方法と講習部分の受講料算出方法が明確ではなかったことから、以下の取扱いとすることを 2024 年 11 月 12 日開催の教務委員会により審議し、諸規程の改正及びガイドラインを改正することが了承された。

- ①新たに授業科目と講習により編成されるプログラムを実施するにあたり、講習の方法は、学部通則及び大学院通則に規定する講義、演習、実験、実習、実技等の面接授業、多様なメディアを高度に利用して行う授業によることを定める。
- ②講習部分の受講料算出方法は、学部通則及び大学院通則に規定する講義、演習、実験、実習、実技等の 1 単位当たりに必要な時間数と同様の計算により 1 単位相当を算出し、これに 14,800 円を乗じて算出することを定める。
- ③本学の正規学生が履修証明プログラムを履修する場合は、プログラム全体の受講料から授業科目に係る単位相当分の受講料を減額することを定める。

改正規程等

- ・北海道大学における履修証明制度のガイドライン等
- ・北海道大学における履修証明プログラムに関する規程
- ・北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程

4. 文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）の認定・厚生労働省教育訓練給付制度の適用

2024 年度に開設した履修証明プログラムである「地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）」及び 2025 年度から履修証明プログラムとして開設する「科学技術コミュニケーター養成プログラム（CoSTEP）」については、社会人の職業に必要な能力の向上を図る社会人に対して提供する大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学省に申請し、2025 年 4 月以降実施分について「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣から認定された。これにより、職業実践力育成プログラム（BP）のうち一定の基準を満たす教育訓練として、厚生労働省が実施する教育訓練給付金の支給対象となる教育訓練指定講座の認可申請を行っている。

5. リカレント教育プログラムの自走化

2023 年度に実施した「AI と人間社会」プログラムは、文部科学省の補正予算事業により運営財源を確保していたが、2024 年度は運営財源を自己調達することとなり、2023 年 10 月に整備したリカレント教育プログラム実施要綱に基づき、運営に必要な直接経費を積み上げたうえで受講料の算定を行い、受講料収入の範囲で運営した。

6. 教育コンテンツにおける著作権処理

「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」による運用指針により、2021 年度改正著作権法第 35 条の適用を受けることになり、個別の権利処理を行わずに本学が登録している「一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会」（SARTRAS）で著作物に対する権利保障を行っている。リカレント教育推進部では、2023 年度開設プログラムから、実施形態や教育コンテンツにおいて利用する著作物の内容に応じて SARTRAS への補償申請の可否を判断している。

¹ 講習とは、学部・大学院授業ではないプログラムのことを指す。



オンライン決済システム導入

2024年9月3日、リカレント教育推進部はオンライン決済システム「e-apply」を新たに導入し、最初の例として「AIと人間社会」(p.14-15)で使用した。このシステムは、受講料の納入やプログラム運営における財務管理を効率化し、リカレント教育プログラムの自走化・持続的運営を実現するための重要な基盤となるものである。本システムの運営は学務部会計課が行い、今後全学的に展開していく予定である。

1. 導入の背景と目的

これまでの多くの正規課程以外の教育プログラムでは、補助金によって無料で実施する 경우가多かったが、社会的・政策的ニーズの高まりを受け、より柔軟かつ安定した財源が必要となっていた。また、有料で教育プログラムを実施する場合でも振込用紙を用いており、オンライン決済が社会的に一般化した状況に対して、大きな遅れがあった。

そのため、受講者の利便性の向上と、受講料収入を主要な運営資金とする体制構築による長期的なプログラム展開を可能にすることを目的として、オンライン決済システム導入の検討を2023年度から開始した。

2. 導入のメリット

導入のメリットとして、1) 受講生の利便性向上、2) インボイス対策の整備、3) 運営の効率化と透明性向上、4) 持続可能なプログラムの実現がある。

オンライン決済システム導入のメリット

メリット	詳細
受講生の利便性向上	クレジットカード決済など多様な支払いオプションの提供により、受講生の利便性が向上
インボイス対応の整備	企業単位の受講申込に対して、適格請求書対応の領収書の発行が可能
運営の効率化と透明性向上	申込から決済のプロセスをシステムで統合し、管理業務を削減 受講料納入や支出管理を一元化することで、財務の透明性と効率性が向上 プログラムごとの収入を可視化することで収益管理を最適化
持続可能な教育プログラムの実現	受講料収入を安定させ、補助金に依存しない形で長期的なプログラムを可能

3. 今後の展望

リカレント教育推進部は、ReHを実施する学内の各編成組織や公開講座等でもこのオンライン納入システムを活用できるように調整を進めている。全学的な対応を可能にするために、今後の運営は学務部会計課が担当することになっており、システムの導入フローや管理方法が標準化される予定である。

システム画面のイメージ、本システムでは複数の「商品」を設定できるため、複数のReHや他の企画でも活用可能である

広報・コミュニケーション

北海道大学のリカレント教育プログラムを、受講検討者はもちろん、プログラム主催に関心のある学内外のステークホルダーに伝えるために、ポータルサイト公開、SNS 運営、『北海道大学概要 2024』への掲載を実施した。なお、学内外連携によるコミュニケーションは p.4-5、イベントによる広報は p.17、p.19、ヒアリング等による個別のコミュニケーション活動は p.20-21、メディア対応等は p.23 を参照されたい。

1. ReH ポータルサイトの公開

ReH ポータルサイト（アドレス <https://rec.grad.hokudai.ac.jp>）は 2023 年度 6 月頃から企画を開始し、年度内に完成していたが、学内手続きに時間を要したため 2024 年 8 月 1 日に公開となった。

本サイトは、学習機会を探している社会人にとっての窓口になるように、ReH 各プログラムだけではなく、公開講座や大学院社会人入試のウェブサイトも含めて一覧的に掲載した。上述のような固定ページだけではなく、募集・イベント告知や報告記事も掲載した。さらに、新規にリカレント教育プログラムの企画・実施を検討している学内外者のために、リカレント教育推進部の支援内容の概要も掲載した。

今後は各 ReH の受講者インタビュー記事などの、より受講をイメージしやすい記事も増やしていくことを計画している。



ReH ポータルサイトの一部



2. SNS 等の運用

Facebook ページ「北大リカレント：ReH」（<https://www.facebook.com/hokudai.rec.office>）を引き続き運用した（2023 年 9 月 29 日開設）。2023 年度は 48 本を投稿、2024 年度は 2024 年 12 月末までに 60 本を投稿した。自組織の活動を紹介するだけではなく、各 ReH や学外関係組織の記事もシェアし、リカレント教育に広く関心のある対象にむけて発信している。



また動画コンテンツの公開のために YouTube 「[ReH] 北海道大学リカレント教育推進部」（<https://www.youtube.com/@hu.recurrent>）も運用した（2023 年 3 月 28 日開設）。現在公開している動画は 5 本であるが、「ささプロ」（p.17）の講義動画のプラットフォームとしても活用し、一部は一般公開を予定している。



3. 『北海道大学概要』への新規掲載

北海道大学の全事業が掲載されている『北海道大学概要』に新たにリカレント教育プログラムの欄を設け、2023 年度実績として 9 プログラムと実施組織、受講者数を掲載した（2024 年 7 月発行 p.56）。



北海道大学リカレント教育プログラム Recurrent Education Programs in Hokkaido University: ReH

リカレント教育推進部は、既存のリカレント教育プログラムを全学的に支援するため「北海道大学リカレント教育プログラム（Recurrent Education Programs in Hokkaido University : ReH）」を明確化した。ReHは、社会人の学び直しを目的とした専門性の高い教育プログラム群であり、一般教養型、職能型、専門職型、履修証明プログラムの4タイプがある。一部プログラムは受講や修了に審査が必要である。企業や自治体と共同で実施するプログラムもある。

北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）一覧

種 類	プログラム名 (略称)	実施組織	募集・開講期間・受講者のべ人数 (2024年2月時点) / 開講回数
一般教養型 教養を深め人生を豊かに	北大道新アカデミー	リカレント教育推進部、道新文化センター	募集：前期4月・後期8月 開講：前期5月初旬～7月中旬、 後期9月初旬～11月下旬 受講者：266人
	Hokkaido サマー・インスティテュート (HSI) extension/professional program in Japanese	高等教育推進機構	募集：3月以降 (選択科目により異なる) 開講：6月～10月 受講者：48人
職能型 仕事に活かせる実践的な知識やスキルを学び、キャリアアップ	科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) ※	大学院教育推進機構 オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション 教育研究部門	募集：4月 開講：5月中旬～3月中旬 受講者：90人
	プラス・ミュージアム・プログラム	文学研究院	募集：各企画ごとに登録 開講：7月～2月 開講回数：8回
	「AIと人間社会」プログラム	リカレント教育推進部、 人間知・脳・AI研究教育センター	募集：11月 開講：1月～3月 受講者：36人
専門職型 専門性を向上。受講に要資格・職歴	医療AI開発者養成プログラム (CLAP) 【インテンシブコース】	医学研究院画像診断学教室 医療AI開発者養成プログラム事務局	募集：4月以降 開講：科目により異なる 受講者：259人
	動物医療センター卒業教育公開セミナー	動物医療センター	募集：適宜申込 開講回数：9回
履修証明プログラム 修了時に文部科学省認定の履修証明書を付与	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム (CCRP)	北海道大学病院医療機器開発推進センター献体による臨床医学研究プログラム協議会事務局	募集：4月～6月 開講：適宜開講 受講者：5人
	デスティネーション・マネージャー育成プログラム	国際広報メディア・観光学院	募集：1月 開講：4月上旬～2月上旬 受講者：5人
	地域イノベーションプロデューサー塾 / 地域イノベーションアドバイザー塾 (RIPS/RIAS) ※	大学院教育推進機構、 産学・地域協働推進機構	募集：ベーシックコース：3～4月、 アドバンスコース：8～9月 開講：ベーシックコース：6月～9月、 アドバンスコース：10月～1月 受講者：p.11 参照

※科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) は、2025年度から履修証明プログラムとして開講。2025年4月以降、科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) および地域イノベーションプロデューサー塾 (RIPS) は「職業実践力育成プログラム (BP)」に位置づけられる。

東北大学との合同による履修証明プログラムの新設

東北大学経済学研究科地域イノベーション研究センター（以下「東北大学」）は、履修証明プログラム「地域イノベーションプロデューサー塾」及び「地域イノベーションアドバイザー塾」（以下「RIPS/RIAS」）を開講している。

2022年度に行われた、北海道大学産学・地域協働推進機構主催で、中小企業の経営者や経営幹部を対象としたRIPSを紹介する経営セミナーを実施したことがきっかけとなり、北海道大学の協力のもと北海道地区においてRIPS/RIASを開講することについて東北大学から提案があった。

1. 北海道大学における開講について

RIPS/RIASは、地域発展のためのプロデューサーとアドバイザーというふたつの育成プログラムを連関させ一体的に実施するもので、授業科目によらない体系的なカリキュラムを持つ社会人の学び直しを目的とした教育プログラムであり、本プログラムを履修証明プログラムとして開講することは、本学におけるリカレント事業の推進に資すると考えられることから、大学院教育推大機構（以下「大機構」）において開講することとして、令和6年2月28日大機構運営委員会の議を経て、3月1日教務委員会の審議・了承を経て開設を決定した。

2. プログラムの運営

運営体制について、2024年2月19日に東北大学及び東北大学が運營業務委託をしている東北大学ナレッジキャスト(株)とリカレント教育推進部及び産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部が打ち合わせを行い、東北大学大学院経済学研究科と本学大機構との間で、授業内容の提供、運営費用の負担について連携協定（覚書）を取り交わすことで実施・運営を行っていくことが確認され、2024年4月23日大機構運営委員会において覚書及び運営に関する実施要項を審議し、覚書は東北大学経済学研究科教授会の議を経て2024年5月16日付けで締結した。

学内の運営体制は、実施要項により、講座運営は東北大学地域イノベーションセンターと連携し産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部が行い、受講手続、受講料収納、履修証明書の発行といった教務関係については、大機構が担うものとして学務企画課大学院教育改革推進室で行っている。

3. RIPS/RIAS の概要

地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）

新規創業や事業イノベーションに必要な知識やスキルを学習し事業構想を策定するベーシックコース（約3か月）と、事業構想を具体的に事業計画化するためのアドバンストコース（約3か月）の2部構成。

地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）

地域企業の事業イノベーションを支援し成長させるための知識やスキルをもつ地域金融機関などの伴走型支援者を育成するベーシックコース（約3か月）と、事業計画化するための支援を実践するアドバンストコース（約3か月）の2部構成。

RIPS/RIAS 2024年度受講者数

プログラム名	コース種別	開講期間	受講者
地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）	ベーシックコース	6月1日から9月7日	8人
	アドバンストコース	10月12日から翌1月24日	7人
地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）	ベーシックコース	6月1日から9月7日	6人
	アドバンストコース	10月12日から翌1月24日	5人



北大道新アカデミー

北大道新アカデミーは、2017年度に締結された北海道大学と北海道新聞社の包括連携協定に基づき、北海道大学と北海道新聞社の共同主催として2018年度から実施している、北海道大学の教員による市民向けのプログラムである。本企画は、2023年度より本学のリカレント教育の柱のひとつに位置づけられ、全学的な取り組みとしてリデザインされた。企画運営は（株）道新文化センターとリカレント教育推進部が担当している。受講生は入学金（2,200円：以前に入学金を納めた者は不要）と受講料（26,400円）を道新文化センターに支払って受講する。各コースは全8回、土曜日に開講する。2024年度前期は文系コースを文学研究院、理系コースを先端生命科学研究院が担当した。後期は今年度より文系コースに代わり総合コースを設け、総合大学としての北大の強みを活かし、統一テーマに対して部局を跨いで講座を開講した。後期の理系コースは情報科学研究院が担当した。後期の各コースの第1回には、本学の寶金清博総長が開講の挨拶をビデオメッセージを通じて行った。

北大道新アカデミー 2024年前期

コース	【文系】文学研究院		【理系】先端生命科学研究院		
タイトル	戦争と平和 ～人文社会科学の視点から考える～		生物と物質の間 ～改めて「生命とは何か」を問う～		
概要文	21世紀も四半世紀が経とうとしています。しかし、私たちが暮らすこの世界には紛争や戦争が絶えません。私たちが歴史や社会の状況を学ぶ理由の一つは、誰しもが理不尽に生を奪われることのない世界を構想するためです。文系コースの講義では、紛争や戦争が地域の暮らしや文学、思想、研究に与えた影響、そして平和を希求する人びとの営みを取り上げ、あるべき社会のビジョンを描くための手がかりを学びます。		生物学、化学、物理学、数学などの基礎科学を融合させて、新しい生命科学の研究分野に取り組んでいます。細胞内で重要なはたらきをもつ物質の構造や機能の研究をはじめ、数理モデルを使って進化の仕組みを明らかにする研究、生命現象から着想を得た人体に应用可能な新しい材料の研究など、多彩な研究が行われています。理系コースでは、最先端の生命科学に携わっている研究者の講義を通じて、私たちの根源的な問い「生命とは何か」に迫ります。		
時間／受講数	13：00～14：30 (90分) 受講者数60人		15：00～16：30 (90分) 受講者数94人		
日付	タイトル／講師名	概要文	日付	タイトル／講師名	概要文
第1回 4/6	学術研究と20世紀中国の「戦争」 吉開将人 教授	20世紀中国史は各種「戦争」の繰り返しの歴史ですが、悲惨なエピソードの陰には「戦争」が学術研究に与えた知られざる影響があります。	第1回 4/6	化学 × 生命 = 化学生物学、先端生命科学がめざすもの 門出健次 教授	生命現象は、化学の言葉で説明できます。化学で生命を理解し、応用すると、アルツハイマー病や癌の治療薬などが開発できます。
第2回 4/13	南の島の紛争と人びと 宮内泰介 教授	戦争や紛争の中で人びとはどう生き抜いていけるのか。オセアニアの小国ソロモン諸島で起きた民族紛争を題材に考えます。	第2回 4/13	細胞分裂から考える「生命とは何か」 石原すみれ 助教	細胞分裂では、細胞内の物質が二分されます。細胞分裂の仕組みと、その失敗が細胞にもたらす影響をお話します。
第3回 4/27	堀田善衛と戦争 水溜真由美 教授	堀田善衛が描く歴史の中の戦争について、堀田自身の戦争体験と関連付けながら、お話しします。	第3回 4/27	生命をささえる「タンパク質」分子の役割 相沢智康 教授	「タンパク質」は単なる栄養素ではなく、生命現象の中では「主役」として働きます。その役割と先端の研究についてお話しします。
第4回 5/25	戦間期の亡命ロシア文化 小椋 彩 教授	1917年の革命と続く内戦後に世界中に形成された亡命ロシア人コミュニティの文化活動の事例から、戦争と芸術表現について考えます。	第4回 5/25	進化を通して生命の本質をみる 山口 諒 助教	生物学×数学をテーマに、幅広い生命現象をみることで、生き物の進化の「なぜ」に迫ります。
第5回 6/29	社会運動から考える東アジアの衝突と連帯—香港・台湾・中国大陸を中心に 伍 嘉誠 准教授	社会運動の視点から、香港・台湾・中国大陸を主に東アジアの緊張関係を理解し、そして連帯の可能性を探っていきます。	第5回 6/29	柔らかい物質のナノ構造 李 响 准教授	生き物は目視では丸みのある形を取っていますが、ナノレベルで見ると実は無数の紐（高分子）からできています。高分子のナノレベルの構造の観測方法やそれを利用した物質作りについてお話しします。
第6回 7/6	平和の人類学 小田博志 教授	人類はこれまで様々な平和の智慧をたくわえてきました。世界各地で人々がどう平和しているのかお話しします。	第6回 7/6	共生する腸内細菌と私たちの健康 中村公則 教授	この講義では、腸管で生活する40兆を超える細菌たちが、私たちの健康や病気に及ぼす影響を解説します。
第7回 7/20	境界域における紛争と「平和」—アルザス史を題材に 安酸香織 准教授	紛争リスクの高い境界域において、どのように「平和」が目指されてきたのか、アルザス史を題材に考察します。	第7回 7/20	材料的視点での生体組織の機能 黒川孝幸 教授	生体組織を材料として考えると、その特性や構造による多様な機能が明らかに。人工ゲルを通じて生体組織の謎に迫ります。
第8回 7/27	計算機械と知能—戦時と平和時の知的探究 佐野勝彦 教授	映画『イミテーション・ゲーム』の主人公、チューリングが、戦時と平和時の両方で携わった、機械を使った知的探究についてお話しします。	第8回 7/27	細胞が織りなす神秘の世界を「科学する」 芳賀 永 教授	「生命」をどのように捉え、どこまで理解を深めることができるのでしょうか。細胞が織りなす神秘の世界について学び、科学の可能性について考えてみましょう。

*会場 学術交流会館 講堂

北大道新アカデミー 2024年後期

【理系】情報科学研究院			【総合】		
コース	情報科学から見える景色 ～デジタルと現実世界の融合から広がる未来社会～		コース	動物と人間社会 ～科学・歴史・文化から問い直す～	
概要文	近年、AI技術の進展により、文章や画像生成などの革新的なサービスが実現し、データサイエンスはゲノム情報などのビッグデータの解析を可能にしています。北海道大学でも、AI、ロボティクス、データサイエンス、半導体など多岐にわたる先端的な情報科学研究が行われています。最前線で活躍する研究者の講義を通じて、デジタルと現実世界の融合がもたらす未来社会について学びます。		概要文	動物は身近で魅力的な存在です。人類はその動物から影響を受け、そして甚大な影響を与えて、文化と科学技術を発展させてきました。しかし現在、野生動物による被害や動物福祉など、その一方的な関係を問い直さなければならない時代となっています。このような問題には「理系」「文系」という枠組みを超えて向き合っていく必要があります。	
時間／受講数	13：00～14：30 (90分) 受講者数58人		時間／受講数	15：00～16：30 (90分) 受講者数54人	
日付	タイトル／講師名	概要文	日付	タイトル／講師名	概要文
第1回 9/7	誰のために情報システムを作るのか？ 坂本大介 准教授	情報と私たちの世界をつなぐユーザインタフェース (UI) やその体験 (UX) の設計事例を紹介します。	第1回 9/14	先住民族イメージと動物 アイヌ・先住民研究センター 山崎幸治 教授	「自然と共生する先住民族」というフレーズを手掛かりに、現代における人間と動物との関係を考えます。
第2回 9/14	人工知能とことばの理解 ジェブカ・ラファウ 准教授	AIはことばをどのように「理解」してきたのか。その進化に関する問題と可能性についてお話しします。	第2回 9/21	街にすむキツネと人のお話 大学院教育推進機構 池田貴子 特任講師	獣害問題が急速に増加しています。アーバンフォックスを例に野生動物との向き合い方についてお話しします。
第3回 9/21	社会と調和する人工知能 横山想一郎 助教	文章の生成や画像の認識を実現する人工知能を応用し、社会の課題を解決するための研究についてお話しします。	第3回 9/28	古文書から紐解くツルと人の関係史 文学研究院 久井貴世 准教授	古文書の記録からツルの生息状況や人との関わりの歴史を紐解き、今後の向き合い方についても考えます。
第4回 9/28	デジタルで世界を視るということは何か？ 量子集積エレクトロニクス研究センター 池辺将之 教授	スマホのカメラが現実世界をどのように視ているか？レンズを通る光、センサ、そしてAIとの関係についてお話をします。	第4回 10/5	動物福祉から向き合う動物の生と死 One Healthリサーチセンター 大谷祐紀 特任助教	英国に起源する動物福祉の考え方を紹介し、動物の安楽死を事例に日本がもつ倫理観とのジレンマを考えます。
第5回 10/5	AIと進化論をモノづくりに活かす 五十嵐 一 教授	AI (人工知能)・進化論を活用し、電気自動車用モータやワイヤレス給電の性能を究極に高める方法についてお話しします。	第5回 10/12	ヒグマと人間の共存のためにできること 獣医学研究院 坪田敏男 教授	ヒグマは北海道のシンボルである一方、人間との軋轢が多い動物です。その生態と共存への道を解説します。
第6回 10/12	ゲノム情報解析からわかること 小柳香奈子 准教授	生命の設計図ともいわれるゲノムが現在大規模に解読されています。そこからわかることについてお話しします。	第6回 10/26	シカの大地に暮らす私たち 北方生物圏フィールド科学センター 揚妻直樹 教授	これからシカとどうつきあっていくかを考えるために、意外に知られていない彼らの歴史や生態を紹介します。
第7回 10/26	ロボットを身に着けてみる世界 田中孝之 教授	ロボットやセンサを身に着けてみることで能力を拡張し、新たに見えてくる世界について考えてみましょう。	第7回 11/9	静寂と暗闇の環境保全 地球環境科学研究院 先崎理之 准教授	加速する人間活動の副産物である騒音・光汚染が野生生物に与える影響とその対策についてお話しします。
第8回 11/9	原子や分子の世界をのぞく 顕微鏡と情報科学 末岡和久 教授	2ナノメートルの半導体技術と原子や分子の世界を顕微鏡技術で探り、情報科学との関連を考えましょう。	第8回 11/16	遺跡の骨から語る世界最古の家禽 総合博物館 江田真毅 教授	ニワトリは現在最も普遍的な家畜ですが、世界最古の家禽ではなさそうです。最新の研究成果をご紹介します。

*会場 高等教育推進機構 N302、他N1 (9/28)、E213 (10/26)、N283 (11/9)、S1 (11/16)

2024年度の受講生は前期 154 人（理系 94 人、文系 60 人）となり、半期の開講としては過去最高の参加者であった。後期の受講生は 112 人（理系 58 人、総合 54 人）である。前期と後期を合わせて合計 266 人の受講は、過去最高となった。2023 年度と比較すると受講者は約 1.5 倍増となっている。10 代の受講生は、前期と後期合わせて 7 人の参加であった。今後も若年層への訴求を図っていきたい。



2024 年度「AI と人間社会」プログラム

北海道大学 人間知・脳・AI 研究教育センター（CHAIN）は、2023 年度、文部科学省の補正予算「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に基づいて、AI 技術の社会実装に伴う倫理的・法的・社会的諸問題（ELSI）や、AI と脳科学、人文社会科学の交差点に生まれる異分野融合的な知を学ぶ社会人向けリカレント教育プログラム「AI と人間社会」を提供した。2024 年度は、リカレント教育推進部が編成部局となり、本プログラムを提供した。

1. 2023 年度「AI と人間社会」実績

2024 年 3 月 22 日に閉講後、修了証の発行の手続きや、助成金申請のための手続きを行った。2023 年度の実績は、コース申込件数はのべ 91 人、修了者数はのべ 73 人、修了率は 80.2%であった。

2023 年度「AI と人間社会」コースごとの受講者数・修了者数

コース名	受講者数	修了者数 (修了率)
コース 1a 「AI 倫理」	39 人	28 人 (71.8%)
コース 1b 「AI から広がる知：異分野融合」	41 人	34 人 (82.9%)
コース 2 エキスパートコース「AI と人間社会」	11 人	11 人 (100%)
合 計	91 人 *	73 人 * (80.2%)

備考：コース 2 の受講にはコース 1 申込が必要 * のべ人数

2023 年 12 月 1 日に「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業委員会」に提出した実施状況報告書及び文部科学省によるヒアリングを受け、2024 年 3 月 19 日に事業委員会からフォローアップ報告書が提示された。

進捗状況について、組織的な運営体制やオープンエデュケーションセンター等学内連携体制が構築されていることで、プログラムの継続的・安定的な実施が期待されること、事業実施委員会の指摘に応じて実務家教員を配置するなど、プログラムの改善がはかられていることで、実施に向けた進捗は順調であると評価された。また、課題・意見として、このプログラムで得られた具体的な内容等を広く報告書等でスピード感をもって発信し、全国の大学等での科目構築モデルとなることを期待するとのコメントがあった。4 月 9 日、人材育成推進事業費補助金実施要項に基づく実績報告書を文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課に提出した。8 月 21 日付け文部科学大臣発北海道大学総長あて 6 文科教第 745 号「令和 4 年度人材育成推進事業費補助金確定通知書」により、補助金事業費全額について額の確定を受けた。

2023 年度の「AI と人間社会」プログラムの概要については、リカレント教育推進部の種村が筆頭筆者となり、共著の実践報告として 2024 年 7 月に「『AI と人間社会』プログラム：北海道大学におけるリカレント教育の試み」と題して『工学教育』に投稿し、2025 年 1 月に同誌に採録された。

2. プログラムの概要

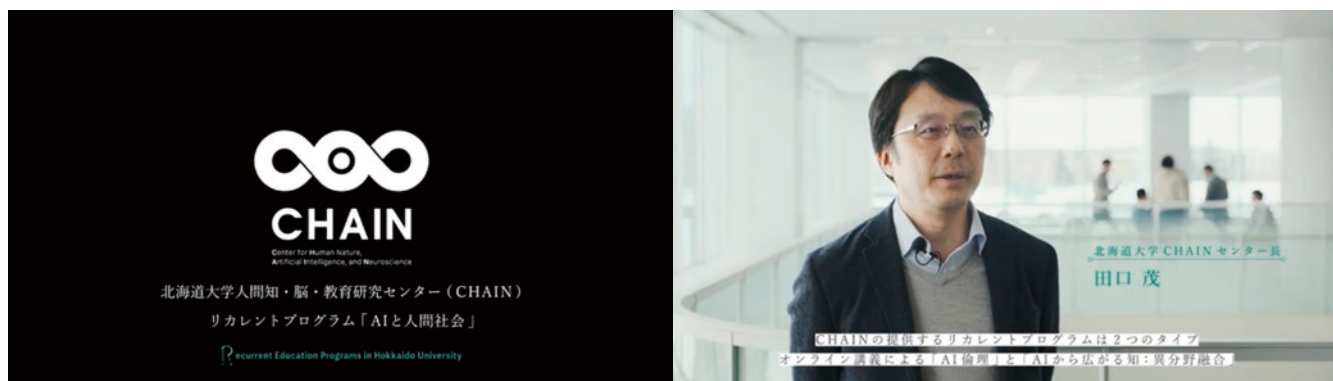
「AI と人間社会」プログラムは、以下の 3 コースで構成されている。コース 1 で昨年度 2 回行った、講師と直接質疑応答ができる Q & A セッションを、今年 4 回に増やした。コース 1 は価格を 44,000 円（税込）から 50,000 円（税込）に増額した。コース 2 の価格は前年と同額であった。

2024年度「AIと人間社会」コース概要

コース名	価 格	内 容
コース 1a 「AI倫理」	50,000円(税込)	AIに関するELSIについて、基本的な論点や最新の事例、未来の可能性を幅広く学ぶオンデマンド形式の講義。
コース 1b 「AIから広がる知：異分野融合」	50,000円(税込)	CHAINの研究・教育を基盤に、AIと脳科学、人文社会科学の交差点で生まれる新たな知の展開を学ぶオンデマンド形式の講義。
コース 2 エキスパートコース「AIと人間社会」	165,000円(税込)	コース 1aまたはコース 1bを受講した受講生を対象に、北海道大学札幌キャンパスでの2日間の対面セミナーを通じて、講義、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う集中型コース。

3. 広報用動画作成と案内活動

2024年度の「AIと人間社会」プログラムの実施にあたり、リカレント教育推進部は、受講生の学習支援を充実させるため、プログラム紹介および学習内容の理解を深めるYouTube動画を制作し、公式サイトおよび受講案内メールを通じて受講生へ案内した。



動画のサムネイルとイメージ

4. オンデマンド講義の準備

2024年度の「AIと人間社会」プログラムの、コース 1 で用いる e-learning コンテンツについては、昨年のコンテンツを流用した。著作権などの対応、画像の差し替えなどについては、北海道大学オープンエデュケーションセンターオープン教育開発部門に依頼した。

5. 医療 AI セミナーへの講師紹介

リカレント教育推進部は「AIと人間社会」プログラムの講師を医療 AI 開発者養成プログラム（CLAP）へ紹介し、コース 2 の募集促進を図った。CLAP の医療 AI 特別セミナー（2025 年 1 月 20 日（月）17：30～18：30）に飯塚博幸 人間知・脳・AI 研究教育センター准教授が認知メカニズムの AI 探求と題し講演を行った。

6. 募集期間および受講状況

リカレント教育推進部は、新しく導入したオンライン決済システム「e-apply」（p.8）を用いて、10 月から受講生の募集を行った。2024 年度の「AIと人間社会」プログラムについては、コース 1a とコース 2b にはそれぞれ 18 件の申込があった。コース 2 は最小開講人数に満たなかったため、開講を見合わせることにした。

コースの募集期間・講義開始・申込人数

コース	募集期間	講義開始	申込人数
コース 1a	2024 年 10 月 1 日～11 月 30 日	2025 年 1 月 6 日	18 人
コース 1b	2024 年 10 月 1 日～11 月 30 日	2025 年 1 月 6 日	18 人



令和6年度札幌市大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進事業補助金 共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラムキックオフ

リカレント教育推進部は、令和6年度札幌市大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進事業補助金に「札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業」を複数年の事業として申請し、6月に単年度の事業として採択された。公益財団法人北海道演劇財団、一般社団法人劇団弦巻楽団、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、札幌市まちづくり政策局政策企画部ユニバーサル推進室と連携して事業を実施している。

本事業の核は「地域課題の解決を図るプロジェクトマネージャー」の養成を目的とした、社会人の学び直し（リカレント教育）プログラムの開発・実施である。地域課題の中でも、札幌市が令和6年度末に制定を目指す「（仮称）札幌市誰もがつながり合う共生のまちづくり条例」を踏まえ、札幌市の地域課題の中でも「ユニバーサル（共生）」に焦点をあてた。この札幌市の地域課題を解決し共生社会の実現を目指すプロジェクトマネージャーを「共生を支えるコミュニティマネージャー」と呼称し、併せて、本プログラムを「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」（略称：ささプロ）と名づけた。2025年10月の実施に向けて準備を進めている。

1. オンデマンド講義の制作

共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラムは、オンデマンド講義と演劇創作集中演習で構成される。今年度、30分程度のオンデマンド講義を10本作成した。講義の作成は種村が中心となり工程管理や講義デザイン等を行った。

作成したオンデマンド講義のタイトル

「まちづくり」について考える その1	互いに支え合うためにはどうしてよいか考える
「まちづくり」について考える その2	プロジェクトマネージャーの仕事
「共生社会」とはどのような社会なのだろうか	目的の設計について考える
できないことをなくしていくまちづくりについて考える	「地域課題」について考える
ステレオタイプ、偏見、差別について考える	演劇と演劇教育について考える



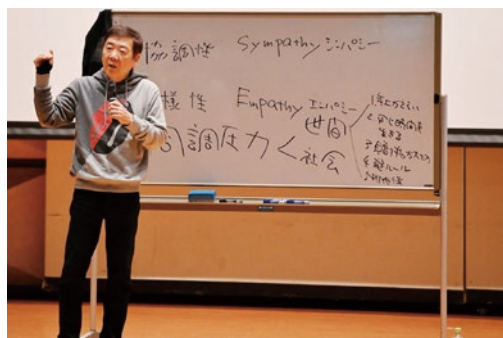
オンデマンド講義のオープニング

2. 公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」

2024年12月14日（土）リカレント教育推進部が主催となり公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」を開催した。本シンポジウムは「共生を支えるコミュニティマネージャー」養成プログラムのキックオフに相当する。ゲスト講師に鴻上尚史氏（作家・演出家）を招聘し、基調講演「コミュニケーションのヒント」を実施した。奥山敏康氏（株式会社アイワード代表取締役社長）と種村剛が、それぞれ情報提供「会社は社会の縮図」「課題解決について大学で学び直してみませんか」を行った。開会の言葉は、川本思心（リカレント教育推進部部長）、閉会の言葉は山本文彦（北海道大学理事・副学長司）が担当した。司会進行は佐久間泉真（劇団弦巻楽団）が務めた。

公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」概要

日時／場所	2024年12月14日（土）14：00～16：00（開場 13：30）／北海道大学クラーク会館大講堂
講演方式	対面・事前申込制・手話通訳あり（札幌聴覚障害者協会より2人派遣）・無料
参加人数	231人（申込人数357人）
主 催	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
共 催	一般社団法人劇団弦巻楽団、公益財団法人北海道演劇財団、札幌市まちづくり政策局政策企画部ユニバーサル推進室、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
協 力	北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部



講演を行う鴻上尚史氏 (写真: usagiMark photo)



質疑応答を行うパネリスト (写真: usagiMark photo)

◀リカレント教育推進部が作成したフライヤー

3. 演劇的手法の研究会

北海道演劇財団・劇団弦巻楽団の関係者、および本事業に協力してもらう役者および、北海道大学のスタッフとのチームビルディングやスキルアップ等を目的として「演劇的手法の研究会」を実施した。鴻上尚史氏による特別回を含めて、5回の研究会を実施した。

演劇的手法の研究会の概要

第1回	日 時：2024年9月25日(水) 18:00～21:00 / 9月26日(木) 9:00～12:00 ファシリテーター：川本思心・松山元樹(北海道大学)
第2回	日 時：2024年11月25日(月) 18:00～21:00 講 師：一宮周平(PANCETTA)
特別回	日時：12月15日(日) 9:30～16:30 講 師：鴻上尚史(作家・演出家)
第3回	日 時：2024年12月17日(火) 18:00～20:30 ファシリテーター：種村剛・川本思心(北海道大学)
第4回	日 時：2025年2月3日(月) 19:00～22:00 ファシリテーター：佐久間泉真(劇団弦巻楽団)



演劇的手法の研究会の様子 (写真: usagiMark photo)

4. 富良野演劇工場視察

11月3日・4日、リカレント教育推進部のスタッフが富良野演劇工場に赴き、富良野市の演劇活動の視察を行った。

富良野演劇工場視察の概要

富良野演劇工場の見学・ ふらの演劇工房関係者ヒアリング	日 時：11月3日14:00～18:00 / 場 所：富良野演劇工場
富良野高演劇部稽古見学	日 時：11月4日10:00～12:00 / 場 所：富良野演劇工場
富良野市生涯教育センター、 富良野市農業担い手育成センター視察	日 時：2024年11月4日(月祝) 11:50～12:10



富良野演劇工場の様子

5. インタビュー調査

札幌市市民市民を対象としたユニバーサル（共生）についての考えや経験に関するインタビュー調査を行った。本調査の実施については、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部から助言を受けた。2024年度には14件のインタビューを採録した。これらのインタビュー調査の結果は、2025年度に、インタビュー集としてまとめる予定である。



教養深化キャリアデザインカフェ共催

2024年7月19日（金）北海道大学が実施する「教養深化プログラム」の一環として、主に文系大学院生を対象にキャリアデザインカフェを開催した（主催：教養深化プログラム、共催：リカレント教育推進部）。リカレント教育推進部が本イベントのワークショップの企画を引き受け、企画立案から当日の運営、事後対応を担当した。講師には、科学技術コミュニケーション養成プログラム、ディスティネーション・マネージャー養成プログラムを修了し、社会人経験を経て北海道大学公共政策大学院で学び直し、現在は栗山町の観光プランナーおよび本学研究員として活躍する望月貴文氏を講師に招き、大学院生が研究を社会に活かす視点を学ぶ機会を提供した。

教養深化キャリアデザインカフェ概要

タイトル	文系大学院生の可能性～自分の研究の“社会展開力”を考えよう！
日時	2024年7月19日（金）13時～15時
場所	北海道大学 クラーク会館 大集会室1
主催	教養深化プログラム
参加対象	北海道大学大学院生、学部生
参加人数	10人
内容	ワークショップ：「自分の研究の社会展開力を考えよう！」
講師	望月貴文氏（栗山町ブランド推進課） 千脇美香（コミュニティストラジスト／大学院教育推進機構リカレント教育推進部 特任助教）
目的	文系大学院生が自身の研究成果を社会に展開する方法を考える。 地域でのキャリア形成の具体的なアイデアを提供する。 参加者同士の意見交換を通じて視点を広げる。



フライヤー

1. 活動内容

リカレント教育推進部が担当した、キャリアデザインカフェの事前準備、当日進行、事後対応の内容は以下である。

活動内容概要

担当	準備内容詳細
事前準備	プログラム設計（講演テーマの選定、ワークショップの流れの構築） 参加者募集の広報活動（教養深化プログラム公式サイトやメールでの案内） 会場準備と備品の確認（テーブル配置、アンケート用紙配布）
当日進行	開会挨拶とプログラム説明、講師紹介および講演進行サポート、ワークショップのファシリテーション グループ分け（研究テーマごとに分散配置）、議論の進行管理（テーマ「研究の社会展開力」） アイデアの共有方法（模造紙を用いた発表）
事後対応	アンケート回収と分析、講師へのフィードバック報告、今後の改善点整理

2. 成果

参加者10人が、講師の経験談を参考にしつつ、自身の研究を社会に活かす方法について具体的なアイデアを共有した。参加者からは、「研究成果を社会と繋げる重要性を理解できた」「地域で働くことの魅力を新たに知った」といった前向きな感想が得られた。ワークショップの進行やグループディスカッションの活発さは、参加者の高い満足度に繋がった。

3. 今後の展望

今後は、社会人になってから学び直しを経験した方々を招いたセミナーやワークショップを実施し、その経験談を通じて「学ぶことの大切さ」を共有していく。また、リカレント教育の重要性をより広く普及させるための企画を積極的に展開し、多様な学びの場を提供していく予定である。



ワークショップの様子



北海道大学ホームカミングデー 2024

北大道新アカデミー体験受講 古文書から紐解くツルと人の関係史

リカレント教育推進部は、北海道大学主催、北海道大学校友会エルム共催で実施する、北海道大学ホームカミングデー 2024 において「北大道新アカデミー体験受講 古文書から紐解くツルと人の関係史」を開催した。本体験受講の目的は、ホームカミングデーに足を運んだ同窓生を対象にして、リカレントプログラムの1つである、北大道新アカデミーを体験してもらうことである。

2024 年度後期の総合コース「動物と人間社会～科学・歴史・文化から問い直す～」の講義から、ホームカミングデーの実施日と時間に合わせ、久井貴世文学研究院准教授の講義「古文書から紐解くツルと人の関係史」を来場者に解放した。

来場者が気軽に体験受講に参加できるように、北大道新アカデミーとは別の教室を準備し、講義をオンラインで配信する形式で実施した。来場者には、リカレント教育推進部が運営を担当する、AI と人間社会プログラムの募集要項を合わせて配布した。

体験受講の来場者 3 人は最後まで熱心に講義を聴講していた。今後、ホームカミングデーにおいて企画を実施する際には、当日の来場者を増やすための工夫が必要であろう。



受付の様子

北海道大学ホームカミングデー 2024 リカレント教育推進部出展概要

タイトル	北大道新アカデミー体験受講 古文書から紐解くツルと人の関係史
日 時	9月28日(土) 15:00～16:30
場 所	高等教育推進機構棟N1 講義室
参 加 費	無料
参加者数	3人
概 要 文	リカレント教育推進部が、道新文化センターと実施している、北大道新アカデミー総合コース(全8回)のうち1回分を聴講することができます。講師は歴史鳥類学が専門の久井貴世准教授(文学研究院)です。



他機関・他大学・企業へのヒアリング等

リカレント教育推進部は、他機関・他大学が行っているリカレント教育の状況や国や自治体の政策目標、企業ニーズに関して、ヒアリング等を行い、最新知見の収集に努めている¹。他大学や組織が実施しているリカレント教育プログラムをスタッフが3件受講し、リカレントプログラムのフィールドワークも実施している。

東北大学地域イノベーション研究センター

日 時	2024年2月19日(月) 15:00～16:00
場 所	北キャンパス総合研究棟3号館1階(ミーティングA)
内 容	RIPS/RIAS開講に向けた次年度以降の体制構築に向けた打ち合わせ

第2回北海道リカレント教育プラットフォームシンポジウム参加

日 時	2024年3月4日(月) 13:30～16:30
場 所	TTKPガーデンシティ札幌大通カンファレンスルーム(札幌市中央区北1条西1丁目8-2)
内 容	生涯現役が求められる現代。社会のどのステージにおいても学び直しを行うリカレント教育が注目されている。本シンポジウムでは、リカレント教育の未来や地域課題の解決を考えるきっかけを提供。大人の学び場「とかち熱中小学校」の事例を交えた講演や、今年度全道で展開したニーズ調査結果の報告を実施。

大学等を活用したリカレント教育EXPO2024参加

日 時	2024年3月5日(火) 10:00～19:00
場 所	御茶ノ水ソラシティ(東京都千代田区神田駿河台4-6)
内 容	リカレント教育の普及啓発を目的としたイベント。大学等の取組成果の共有や産学官の交流・意見交換を通じ、主体的取組の継続・発展を目指す。

NHK札幌放送局

日 時	2024年5月14日(火) 10:00～11:30
場 所	NHK北海道(札幌放送局)
内 容	リカレント教育に関する意見交換

札幌市まちづくり政策局政策企画部ユニバーサル推進室

日 時	2024年5月14日(火) 15:00
場 所	札幌市役所本庁舎5階南側ユニバーサル推進室
内 容	リカレント教育に関する意見交換

小樽商科大学

日 時	2024年5月16日(木) 14:30～15:30
場 所	オンライン会議
内 容	リカレント教育に関する意見交換

職業実践力育成プログラム及びキャリア形成促進プログラム実施機関向けリカレント教育説明会

日 時	2024年8月22日(木) 15:00～16:30
場 所	オンライン説明会
内 容	職業実践力育成プログラム及びキャリア形成促進プログラム実施機関の担当者向けに、リカレント教育、各種申請手続き及び教育訓練給付制度等に関する説明会。

東京藝術大学キュレーション教育研究センター

日 時	2024年7月22日(月) 16:00～17:00
場 所	オンライン会議
内 容	東京藝術大学キュレーション教育研究センターが実施するリカレント教育の内容をヒアリング

富良野演劇工場他

日 時	2024年11月3日(日)～4日(月)
場 所	富良野演劇工場他(北海道富良野市中御料)
内 容	富良野市が行っている演劇教育の取り組みについてのヒアリング(p.17)

北海道新聞社DO-BOX EAST /道新文化センター

日 時	2024年12月5日(木) 15:30～17:00
場 所	DO-BOX EAST(札幌市中央区大通東4丁目1番地)
内 容	最大200人収容可能な交流スペースを備え、講演会、セミナー、会議、ミニコンサート、上映会、展示会、展示即売会など、多彩なイベントに対応。今年度のふりかえり、および来年度方針について協議

愛媛大学 地域協働推進機構地域専門人材育成・リカレント教育支援センター

日 時	2024年12月24日(火) 10:00
場 所	北海道大学高等教育推進機構副校長室(E104)
内 容	フォーラム等の打ち合わせ、リカレント教育に関する意見交換

道新文化センター

日 時	2025年1月14日(火) 16:00～17:30
場 所	道新文化センター4階407(北海道札幌市中央区北1条東1丁目7-1アルファセンタービル)
内 容	来年度企画料について意見交換

ボストンコンサルティンググループ

日 時	2025年1月15日(水) 11:30～12:30
場 所	オンライン会議
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

NTT社会情報研究所

日 時	2025年1月17日(金) 10:00～11:15
場 所	オンライン会議
内 容	Well-being研究プロジェクトについて意見交換(1)

NTT社会情報研究所

日 時	2025年2月6日(木) 9:30～10:30
場 所	オンライン会議
内 容	Well-being研究プロジェクトについて意見交換(2)

¹ 企業のヒアリングについては非公開としたため本報告書では記載しない。



内部ヒアリング・企画打ち合わせ

リカレント教育推進部は、社会人向け教育プログラムの新規計画に向け、学内でのヒアリングや打ち合わせを継続実施。学内外の関係者から意見を収集し、リカレント教育の現状やニーズの把握に努めている。

北方生物圏フィールド科学センター中川研究林

日 時	2024年2月10日(土)・11日(日)
場 所	中川研究林(北海道中川郡音威子府村字音威子府483番地)
内 容	リカレント教育に関する意見交換・演習視察

産学・地域協働推進機構 産学連携推進本部

日 時	2024年2月13日(火) 11:00～12:00
場 所	中央キャンパス総合研究棟2号館1階MDSC会議室
内 容	再生可能エネルギーに関連した共同プロジェクト拠点に関する意見交換

北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林

日 時	2024年3月4日(月)・6日(水)
場 所	雨龍研究林(北海道雨竜郡幌加内町字母子里)
内 容	リカレント教育に関する意見交換・演習視察

地域イノベーションプロデューサー塾(RIPS)・ 地域イノベーションアドバイザー塾(RIAS)

日 時	2024年4月1日(月) 16:30～17:30
場 所	中央キャンパス総合研究棟2号館1階MDSC会議室
内 容	RIPS/RIAS学内連携についての意見交換

医療AI開発者養成プログラム(CLAP)

日 時	2024年4月15日(月) 15:00～16:00
場 所	医局会議室(医学部東南棟1階 ES1・106-2)
内 容	学内連携についての意見交換

北方生物圏フィールド科学センター

日 時	2024年4月22日(月) 10:00～12:00
場 所	北方生物圏フィールド科学センター事務局
内 容	北方生物圏フィールド科学センターのリカレントプログラムについて意見交換

公共政策大学院

日 時	2024年4月25日(木) 13:30～14:30
場 所	2階206室
内 容	リカレントプログラムについて意見交換

北方生物圏フィールド科学センター苫小牧演習林

日 時	2024年5月22日(水)・23日(木)
場 所	苫小牧演習林(北海道苫小牧市宇高丘)
内 容	リカレント教育に関する意見交換・演習体験

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

日 時	2024年5月16日(木) 16:00～17:00
場 所	中央キャンパス総合研究棟2号館1階ラーニングコモンズ大
内 容	学内連携についての意見交換

教育改革室学修成果の可視化検討WG勉強会 「マイクロレディンシャルとデジタル学修歴の最新動向と標準化」

日 時	2024年10月17日(木) 15:00～17:00
場 所	情報教育館Fスタジオ型研修室
内 容	学修成果の可視化における「オープンバッジ」や「マイクロレディンシャル」の最新動向について講演・意見交換を実施。

化学反応研究拠点(ICReDD)

日 時	2024年11月21日(木) 10:30～12:00
場 所	理学部7号館7-212室(化学部門会議室)
内 容	リカレントプログラムについての意見交換

広域複合災害研究センター(CNHR)

日 時	2024年11月28日(木) 10:00～11:00
場 所	農学部特別会議室(N103)
内 容	リカレントプログラムについての意見交換

医療AI開発者養成プログラム(CLAP)

日 時	2024年11月14日(木) 13:00～14:00
場 所	医局会議室(医学部東南棟1階 ES1・106-2)
内 容	リカレントプログラムについての意見交換

北方生物圏フィールド科学センター

日 時	2024年12月23日(月) 14:30～15:30
場 所	北方生物圏フィールド科学センター事務局
内 容	学内連携についての意見交換

農学研究院

日 時	2025年1月7日(火) 10:00～11:00
場 所	農学研究院会議室S103
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

工学研究院

日 時	2025年1月16日(木) 15:00～16:00
場 所	工学部研究院長室
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

化学反応創成研究拠点(ICReDD)

日 時	2025年1月16日(木) 15:00～16:00
場 所	理学部7号館7-212室(化学部門会議室)
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点

日 時	2025年1月20日(月) 13:00～14:00
場 所	ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点事務局
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

サステナビリティ推進機構

日 時	2025年1月21日(火) 10:30～11:30
場 所	サステナビリティ推進機構事務局
内 容	リカレント教育エコシステム構築支援事業について意見交換

水産科学研究院

日 時	2025年1月31日(金) 15:30～17:00
場 所	高等教育推進機構N272
内 容	CREEN人材育成カリキュラムについて意見交換



2023・2024 年度リカレント教育推進部年表

2023年度	事 項
3月28日	第1回リカレント教育実施委員会開催
2024年度	事 項
4月6日	北大道新アカデミー 2024年度前期講座開講 理系コース：先端生命科学研究院、文系コース：文学研究院（～7月27日）
6月1日	学内共同プロジェクト拠点「リニューアブルエナジーリサーチ&エデュケーションセンター（RREC）」参画
6月25日	第1回リカレント教育アドバイザー・ボード開催
6月26日	「大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進補助金」交付決定 （札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業採択）
7月1日	兼務教員として鄭 漢模高等教育推進機構高等教育研究部助教を配置
7月4日	医療AI開発者養成プログラム（CLAP）第26回医療AI特別セミナー講演
7月10日	学内共同プロジェクト拠点「ヘルスケアAIXイノベーションセンター（HAIXIC）」参画
7月19日	教養深化キャリアデザインカフェ「文系大学院生の可能性～自分の研究の“社会展開力”を考えよう！」講演
8月1日	北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）ホームページ公開
8月21日	工学教育（Journal of JSEE）／（公社）日本工学教育協会 事例紹介「AIと人間社会」プログラム：北海道大学におけるリカレント教育の試み」採択『工学教育』1月号掲載
9月2日	第2回リカレント教育実施委員会開催
9月3日	決済プラットフォームサービス「e-apply（イーアプライ）」導入
9月7日	北大道新アカデミー 2024年度後期講座開講 文系コース：文学研究院、総合コース：新設（～11月16日）
9月17日	北大道新アカデミー賞金総長開講挨拶動画公開（YouTube）
9月28日	北海道大学ホームカミングデー 2024「北大道新アカデミー」体験講義開催
10月1日	「AIと人間社会」プログラム 2024年度募集受付開始、特設WEBサイト公開
10月17日	「AIと人間社会」プログラム 紹介動画公開（YouTube）
11月12日	教務委員会にて履修証明制度のガイドライン・規程・聴講生等の検定料等の額に関する規程を改正
11月30日	「AIと人間社会」プログラム コース1aおよびコース1b募集終了
12月14日	公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」開催 （札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業）
12月15日	「演劇的手法の研究会」鴻上尚史氏ワークショップ開催 （札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業）
12月27日	職業実践力育成プログラム（BP）2件認定 （科学技術コミュニケーター養成プログラム、地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS））
1月6日	「AIと人間社会」プログラム コース1aおよびコース1b開講
1月14日	「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」のトレーラー公開（YouTube）
1月31日	「AIと人間社会」プログラム コース2募集終了
2月7日	第3回リカレント教育実施委員会開催
2月13-14日	リカレント教育推進フォーラムin呉講演／アイデアミーティングin広島大学参加
3月21日	「AIと人間社会」プログラム 閉講
3月27日	第2回リカレント教育アドバイザー・ボード開催



記事掲載およびワークショップ・講演協力・研究業績

1. 記事掲載

2024年のリカレント教育推進部の活動は以下の媒体に掲載された。

『北大時報』

- ・大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年度後期北大道新アカデミーを開講」『北大時報』838（2024年1月），p. 23.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_24_1.pdf
- ・大学院教育推進機構「人間知・脳・AI研究教育センターと大学院教育推進機構リカレント教育推進部がリカレント教育プログラム「AIと人間社会」を実施」『北大時報』842（2024年5月），p.16.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_24_5.pdf
- ・大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2024年度前期北大道新アカデミーを開講」『北大時報』846（2024年9月），p.20.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_24_9.pdf
- ・大学院教育推進機構「北大道新アカデミー体験受講 古文書から紐解くツルと人の関係史」を開催」『北大時報』848（2024年11月），p.16.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_24_11.pdf
- ・大学院教育推進機構「北海道大学「北大道新アカデミー」2024年度後期プログラム開催」849（2024年12月），p.28.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_24_12.pdf
- ・大学院教育推進機構「公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」を開催」『北大時報』850（2025年1月），p.26.，https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_25_1.pdf

新聞記事

- ・「公開シンポジウム「誰もがつながり合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」『朝日新聞』（2024/12/6）朝刊（道内）20面。
- ・「知っ得北海道 鴻上尚史さん招きシンポ」『北海道新聞』（2024/12/7）朝刊（北海道）25面
- ・芝垣なの香「学びeye 演劇で学ぶ共生社会 北大新年度に社会人向けプログラム」『北海道新聞』（2025/1/6）朝刊（教育）15面。
- ・芝垣なの香「社会人の学び直しに演劇を！ 演出家・鴻上尚史さんの「リカレント教育」とは」『北海道新聞デジタル』（2025/1/6），<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1104286/>

2. ワークショップ・講演協力

リカレント教育推進部のスタッフは、他部局の実施するリカレント教育の推進を目的としたワークショップや講演会に協力することで、多様な視点を取り入れ、より効果的で魅力的な社会人向け教育プログラムの構築を目指している。

ENREISO Knowledge Park vol.1 コミュニケーションスキルアップ講座ワークショップ

日 時	2024年4月25日(木) 17:30～18:30
場 所	エンレイソウ 1F ENLIGHT
主 催	社会連携課
内 容	コミュニケーション体験談を通じて、レゴ®シリアスプレイ®を活用したワークで参加者同士の対話を深めるワークショップを実施。
講 師	川本思心

医療AI開発者養成プログラム(CLAP) 第26回医療AI特別セミナー

日 時	2024年7月4日(木) 17:30～18:30
場 所	Zoomによるオンライン形式
主 催	北海道大学医療AI開発者養成プログラム(CLAP)、北海道大学病院医療AI研究開発センター、連携研究センター医療AI教育研究分野
内 容	演題：「研究と共に、人の新たな可能性を開拓する：起動した北海道大学のリカレント教育の現状と将来」
講 師	川本思心

リカレント教育推進フォーラム in 呉

日 時	2025年2月13日(木) 13:00～16:30
場 所	呉阪急ホテル
主 催	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
内 容	演題：「[地域共創型リカレント教育]の新たな展望」
講 師	川本思心

アイデアミーティング in 広島

日 時	2025年2月14日(金) 13:00～15:30
場 所	広島大学ミライクリエ
主 催	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
内 容	地域ハブ人材の育成に向けたアイデアミーティング
参 加	川本思心・種村剛

3. 研究

リカレント教育推進部のスタッフは、リカレント教育についての研究を行っている。

論文他

- ・種村剛、田口茂、千脇美香、石川奈保子、川本思心 2025 「[AI と人間社会] プログラム：北海道大学におけるリカレント教育の試み」『工学教育』73 (1), p.80-85.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsee/73/1/73_1_80/_article/-char/ja
- ・種村剛 2025 「大学におけるリカレント教育の展開：2000 年代から 2020 年代の行政資料を対象とした概念分析」『政治空間における諸問題：有権者，政策，投票』中央大学出版部，p.71-114.

報告

- ・鄭漢模「日本の大学における成人学習者向けの教育プログラムの意義と課題—北海道大学の事例を中心に」The Korean Association for Adult Learner in Higher Education 創立準備月例フォーラム（2025 年 1 月 7 日、オンライン）.

北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部 2024 年 年次報告書

発 行 2025 年 3 月
発行者 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
〒 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構 1F
TEL 011-706-5252 / 011-706-6870
e-mail rec_office@ml.hokkaido.ac.jp
印 刷 株式会社アイワード



北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部

Advancement of Recurrent Education Division, Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University